

日中韓三カ国合同環境研修 (第 2回) の実施について

1. 本研修実施までの背景

環境問題が国境を越えて広がっている現在、日中韓の三カ国が協力してその解決に取り組むことは不可欠である。また、地球規模の環境問題への取り組みに関しても、アジア地域の立場を明確に主張していくためには、アジアの中核であるこの三カ国が、共通のビジョンを作って議論に望むことがますます重要になっている。

そういった共通認識に立って、日中韓三カ国環境大臣会合が始まり(第 1回会合 :1999年 1月 13日)、大臣レベルでの真剣な議論がされるようになった。その会合の中で、「環境共同体意識の向上」が優先取組分野の一つとして合意され、本研修が実施されることとなった。

2. 本研修の目的

本研修は、「環境共同体意識の向上」の実現のための具体的事業として、三カ国それぞれの環境行政を担当する行政官が、三カ国の環境の現状、課題、対策等について情報や認識を共有することを促進するものである。具体的には以下の 4項目が挙げられる。

各国の環境問題 政策の理解と情報交換を促進する

環境政策及び行政のあり方について、各国の経験から学習する

北東アジア地域共通の環境問題を認識し、その解決に向けた国際協力の推進方を模索する

研修生同士の結びつきを強め、国際的な環境情報交換ネットワークを構築する

また、事務局は、環境省環境研修センター(日本国)、国立環境研究院環境研修部(韓国)、国家環境保護総局宣伝教育中心(中国)におかれ、研修の企画・運営を行う。

なお、本研修は毎年、各国が持ち回りで実施することになっている。第 1回研修(2001年)は日本国が主催し環境研修センターで、第 2回研修(2002年)は韓国が主催し国立環境研究院環境研修部で実施した。2003年は中国で実施される予定である。

3. 第 2回合同環境研修の概要

第 2回研修は、2002年 12月 3日から 10日までの 8日間にわたり、韓国仁川市にある国立環境研究院環境研修部で実施した(ただし、研修は日曜日を除く 7日間実施)。研修生は、「大気保全」、「水質保全」、「廃棄物対策」の 3テーマに従事する職員を対象とし、日本から 5名(環境省 2名、地方公共団体 3名)、韓国から 9名、中国からは 5名が参加した。

研修は、午前中は上述 3テーマの三カ国における現状と課題についての講義を聞き、午後はテーマに関連する施設見学を行った。その他生態系や北東アジアにおける環境協力体制に関する講義を受講し、韓国の文化に触れる機会もあった。また、テーマごとに 3グループに分かれ、講義時間外も利用してグループ討議を行い、その結果をまとめて最終日に発表した。なお、研修はすべて英語で行われた。

4. まとめ

実務者レベルでの研修の第 2回として実施された本研修は、上記の事項に関する日中韓の講師による講義と研修生による討議、プレゼンテーション、現地見学等を通じて、三カ国の環境の現状と対策、課題についての共通の認識が形成され、そして何より、それぞれの国での環境行政に従事している公務員相互の交流と意思の疎通が図られたことに大きな成果があったものと考えている。

また、それぞれの研修生には、本研修の目的の一つである三カ国の協力推進のために、この研修の成果を活かし、今後も日中韓三カ国の環境行政の橋渡しとして活躍されることを期待する。また、今後、事務局では受講生を対象としたメーリングリストを開設する等により、三カ国の交流及び協力関係を促進したいと考えている。